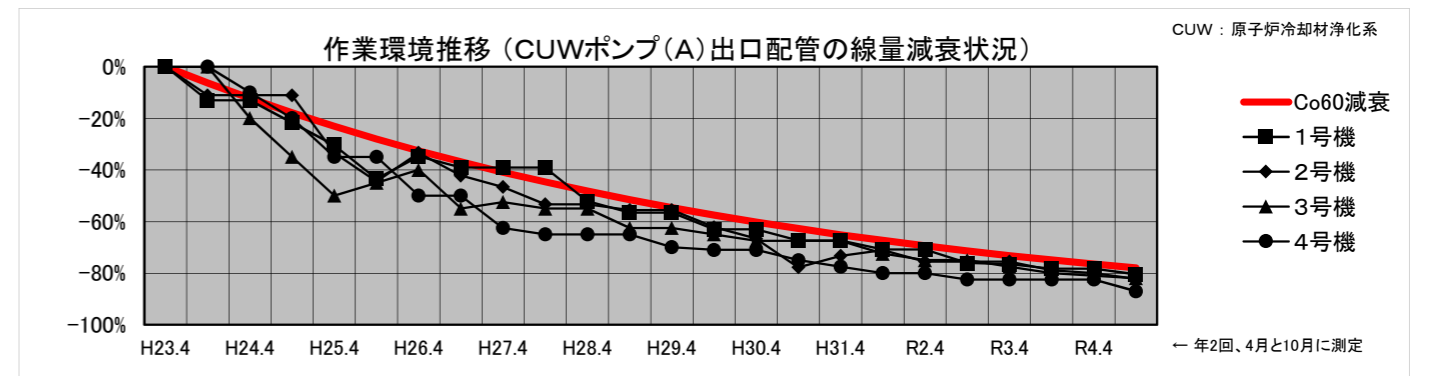
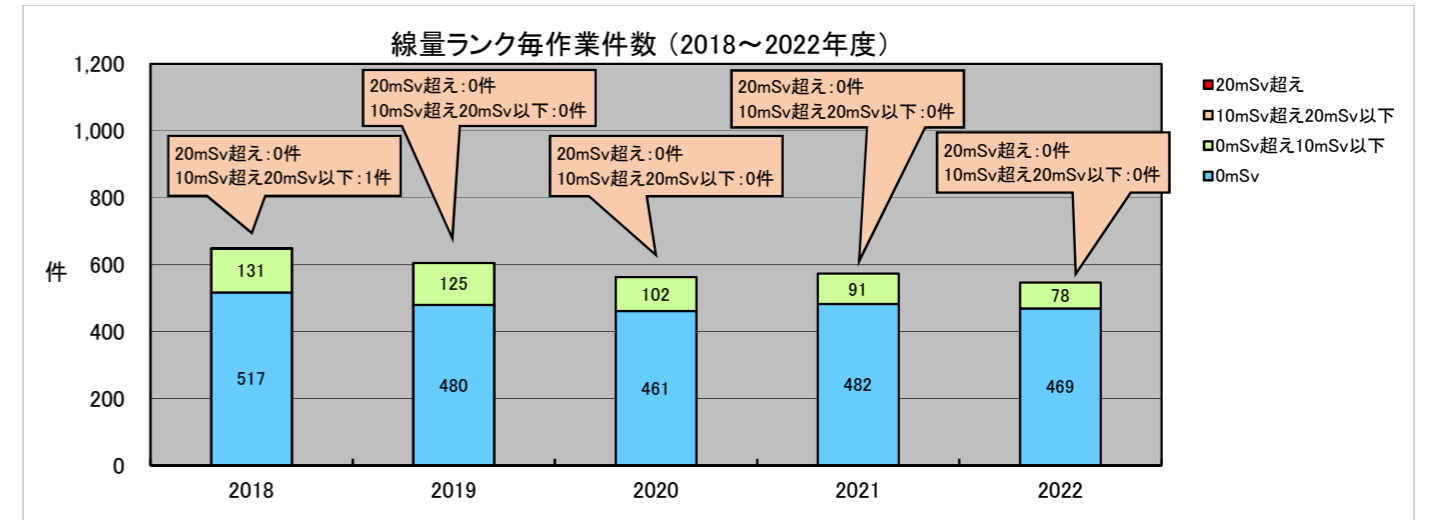
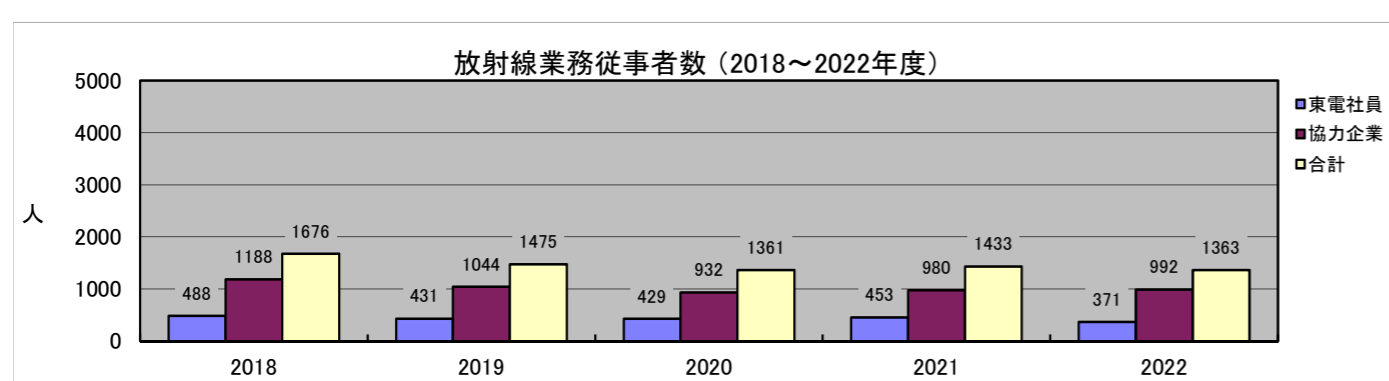
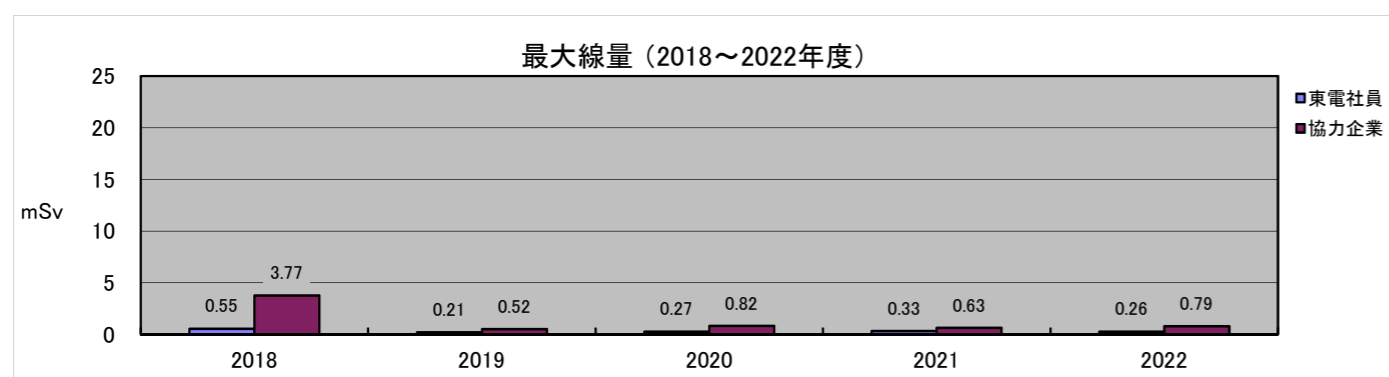
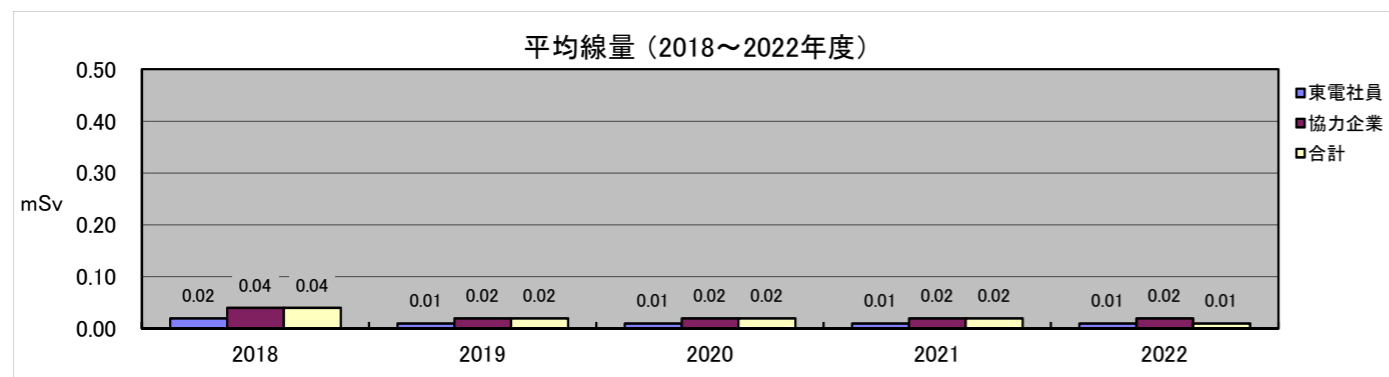
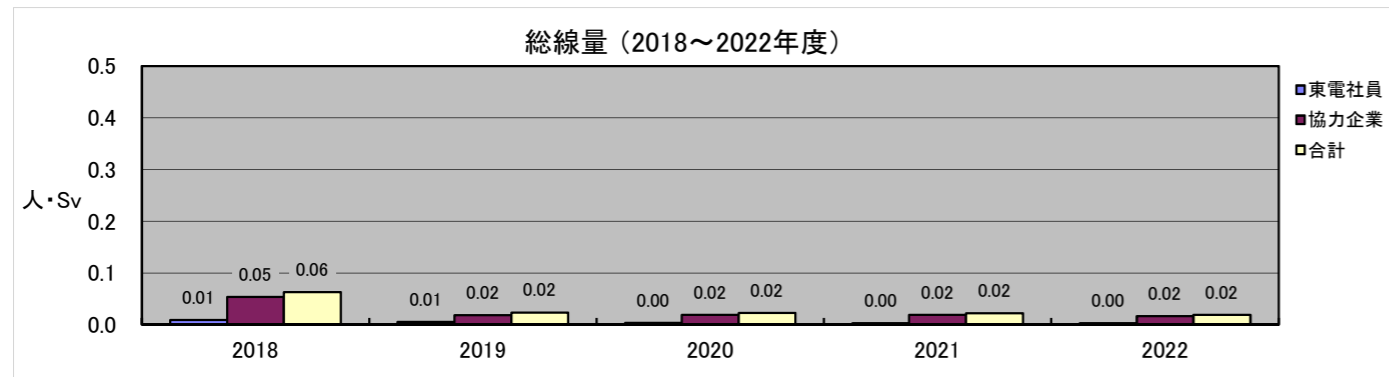
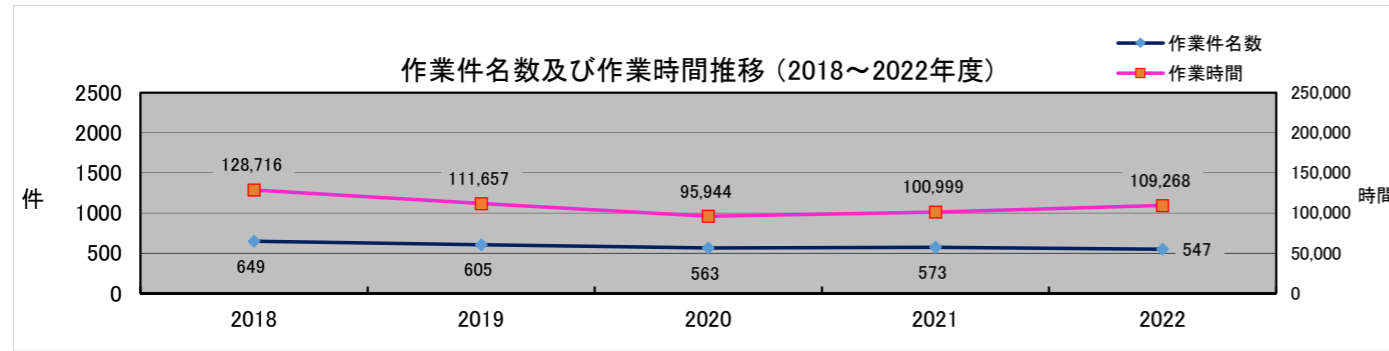


福島第二原子力発電所 放射線業務従事者数および線量状況について



【2022年度実績について】

◆前年度との比較

比較項目	2021年度	2022年度	比較(2022-2021)
作業件名数	573 件	547 件	▲ 26 件
作業時間	100,999 時間	109,268 時間	8,269 時間
総線量	0.02 人・Sv	0.02 人・Sv	▲ 0.00 人・Sv
平均線量	0.02 mSv	0.01 mSv	▲ 0.01 mSv
最大線量	東電社員	0.33 mSv	0.26 mSv
	協力企業	0.63 mSv	0.79 mSv
放射線業務従事者数	1433 人	1363 人	▲ 70 人
総線量が10人・mSvを超える作業件名数	0 件	0 件	0 件

◆考察

○2022年度実績は、前年度と比較して作業件名数は同程度であり、作業時間は増加しているが総線量についても、前年度と比較して同程度であるのは、雰囲気線量の低下が要因と考える。個人最大線量については、東電社員は固体廃棄物貯蔵庫管理業務、協力企業は低電導度廃液系受タンク点検となっており2022年度の福島第二原子力発電所の個人線量目標値1mSv/年以下であった。

<線量低減活動>

- 予想総線量が20人・mSv以下の作業
 - ・作業前に提出される放射線管理計画書で線量低減対策等の計画を確認するとともに、追加または改善できる線量低減対策があれば協力企業に提案、指導助言を行う。
 - ・日々の線量実績を確認し、日計画線量に対する超過者の有無などを確認する。
 - ・作業後に提出される放射線管理報告書で線量低減対策等の実績を確認するとともに、次回作業や他号機作業への反映事項がある場合は、それらを展開する。
- 予想総線量が20人・mSvを超える作業 (上記20人・mSv以下の作業における線量低減対策に加え以下を実施)
 - ・放射線管理計画書の事前検討会を協力企業と実施し、作業内容・作業手順・作業環境・日計画線量・線量低減対策等を詳細に確認する。
 - ・作業の進捗に応じて予想線量に対する実績を確認する。また、線量低減対策の実施状況を現場パトロールで確認し、改善すべき内容があれば協議する。
- 予想総線量に関わらず作業中の放射線リスクに対するホールドポイントを設けている作業は、一度立止まり、工事部門と放射線管理部門で作業環境および放射線防護対策の妥当性を再確認した上で作業を再開する。
- 個人線量目標による管理
 - ・年度の個人線量目標を設定し、特定の個人への線量の偏りに対して対策を検討、実施する。

◆線量ランク毎作業のうち、10mSv超え作業について
2018年度(1件) ⇒ 2号機原子炉冷却材浄化系弁類点検手入れ(11.02mSv)、作業概要: 弁分解点検